

新年の目標は、週に一度のマイ「ノー残業」デー。  
子どもをお風呂に入れたり、食事の世話をしてみよう

新しい1年が幕を開けました。今号と次号、このコラムでは、ワーク・ライフ・バランスの実践にむけたヒントをご紹介します。前号でご紹介した「父親タイプ診断チャート」の6つの父親タイプに沿って、まずは3つのタイプを取り上げます。

共育てパパ自身はもちろんのこと、共育てパパを部下にもつ方にもぜひ目を通していただき、今年新たな一歩を踏み出すヒントにしていだけたらと思います。

### 「積極パパ」→育休取得へ、環境整備を

まずは、「積極パパ」。「できるだけ子育てにかかわりたい。育休もぜひ取りたい!」というタイプです。今日、男性の育休取得率は1.23%と非常に少数ですが、希望者とはいうと、実は3割を超えています。「潜在層」もふくめれば、「積極パパ」は実はかなり多いのです。

そんな「積極パパ」を後押しする動きが活発になってきています。以前このコラムでもご紹介した、育児・介護休業法の改正もその一つです。労使協定による専業主婦(夫)の除外規定が廃止され、専業主婦の妻をもつ男性も育休を取得できるようになります。また、父親が出産後8週間以内に育休を取得した場合に期間内に再度取得できるしくみや、両親とともに育休を取得する場合には取得可能期間が2か月延長される「パパ・ママ育休プラス」の導入も盛り込まれ、今年6月に施行されることになっています。積極パパには、ぜひこういった制度を活用してもらえたらと思います。しかし、本人と職場の関係が「権利だから使って当然」―「迷惑だけれどしかたがない」という対立構造になってしまうと、うまくいきません。早めの引き継ぎや、普段からの職場内での情報共有を心がけて、本人も周囲も安心して育休を取得できる、受け入れられる体制をつくるのが大切です。

### 「模索パパ」→まずは小さな一歩を

続いて、「模索パパ」。子育てにかかわりたいという気持ちはあるけれど、育休取得はちょっと…。ほかの形でかかわりたい、というタイプです。育休についても、「絶対無理!」とは言わずにぜひ検討してみしてほしいと思いますが、もちろん方法は他にもあります。前述の改正育休法では、事業主に対して、3歳未満の子をもつ人の請求に応じて所定外労働を免

除することや、短時間勤務制度を設置することが義務化されます。いまはまだ少数ですが、今後は、短時間勤務という働き方もより現実的なものになってくるでしょう。このほか、勤務先に制度があれば、就業時間に柔軟性をもたせる「フレックスタイム制」や、ITを活用して自宅などで仕事をする「テレワーク」などを活用する方法もあります。

もっと身近なところでは、週に1日は「ノー残業」を心がけて、子どもをお風呂に入れたり、食事の世話をしたり、ということも考えられます。決まった曜日に「ノー残業」デーを設けることが難しければ、1週間のなかで仕事の状況を見ながら設定しても良いでしょう。難しく考えず、できることから始めてみましょう。最初は慣れなくても、だんだんと、「バランス」のこつがつかめてくるはずですよ。マネージャーの方は、ぜひ、「模索パパ」が小さな一歩を踏み出す後押しをしてあげてください。

### 「おろおろパパ」→情報と仲間が支えに

最後に、「おろおろパパ」。子育ては夫婦ふたりでするものだと思っはいるけれど、実際に自分のこととなると、どうしたらいいのかさっぱりわからない、というタイプです。「おろおろパパ」に必要なのは、適切な情報やネットワークではないでしょうか。市販の男性向け育児雑誌や、インターネット上のコミュニティサイトも有用ですし、厚生労働省の「父親のWLB応援サイト」では、共育てパパに役立つ情報をコンパクトにまとめたハンドブック「父親のワーク・ライフ・バランス～応援します!仕事と子育て両立パパ～」をダウンロードできるようになっています。父親向けのイベントやセミナーに参加したり、「ママ友」に「パパ友」を

紹介してもらうのもおすすめです。職場では、メンターや、部署を超えたネットワークの存在が心強い支えになるでしょう。このような取り組みは女性を中心に進められてきましたが、共育てパパにむけてもぜひ広げてもらえたら、と思います。

次号では、「仕事一直線パパ」「クラシックパパ」「受け身パパ」について取り上げます。

(わしお・あづさ)

※この連載は、ヒューマンリソース研究所の中間真一主席研究員と鷺尾梓研究員が執筆します



鷺尾 梓 株式会社ヒューマンリソース研究所 研究員

国際基督教大学大学院教育学研究科修士課程修了。2004年より現職。国内外における生活価値観調査をもとに、「働く」「学ぶ」「暮らす」といった生活の基本から、未来に向けたライフスタイル・社会のあり方を探求している。共著書に『男たちのワーク・ライフ・バランス』(幻冬舎リソース)。